

教育の質を向上させるための学生ワーキンググループを設置



徳島大学教育委員会は、教育改善活動に学生にも参加してもらい、教育の現状や将来構想を学生に直接伝えると共に、学生の持っている教育への要望をくみ取り、それを実現させていくことによる教育の質を向上させ、教育に対する満足度を高めよう」と教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ(以下「学生WG」という。)を平成16年12月に設置しました。

この学生WGは、総合科学部と工学部を中心とした常三島グループ(学部(4年制)十大学院)と、医学部、歯学部、薬学部を中心とした蔵本グループ(学部(6年制)十大学院)に分かれ、当面は、教育の接続問題(高校教育と大学初年次教育、全学共通教育と学部専門教育、学部専門教育と大学院教育)を考える予定です。

5月16日(月)に平成17年度常三島グループ第一回ミーティングを開催し、教育の現状について意見交換を行いました。



行事予定
2005/07/01~2005/09/30

●第56回四国地区大学総合体育大会
7月1日[金]開会式
7月3日[日]閉会式/総合表彰式
7月1日~3日サッカー他19競技
鳴門総合運動公園、県内各大学体育館等
問い合わせ 学務部学生課 088-656-7287

●県内高等学校と徳島大学との連絡協議会
7月27日[水]14時~17時
工学部大会議室
問い合わせ 学務部教務課 088-656-7081

●徳島大学オープンキャンパス[学部説明会]
徳島大学の全学部
総合科学部 8月4日[木]常三島
医学部 8月4日[木]、8月5日[金]蔵本
歯学部 8月5日[金]蔵本
薬学部 8月4日[木]蔵本
工学部 8月3日[水]常三島
問い合わせ 学務部入試課 088-656-7091

●高校生のための「体験大学院」
8月3日[水]
工学部 常三島
問い合わせ 工学部学務係 088-656-7315

●医学部保健学科看護学専攻体験入学
8月4日[木]午前
医学部保健学科 蔵本
問い合わせ 医学・歯学・薬学部等
事務部学務課第四教務係 088-633-9009

●第8回科学体験フェスティバルin徳島
8月6日[土]~7日[日]
工学部 常三島
問い合わせ 工学部総務係 088-656-7304

●エンジニアリングフェスティバル2005
9月30日[金]
工学部 常三島
問い合わせ 工学部総務係 088-656-7304

卒業式・修了式



平成16年度卒業式・修了式が、3月25日(金)アステイ徳島で挙行され、合計1,759名(学部卒業生1,216名、短期大学部専攻科修了生19名、修士「博士前期課程」461名、博士「博士後期課程」63名)の卒業生及び修了生に、青野学長から、卒業証書・学位記が授与されました。

学長からの式辞、在学生総代の柿木雅さんの送辞に続き、卒業生・修了生総代として、工学部建設工学科の橋健太さんより「社会の発展と人々の生活を豊かにするために、本学の卒業生・修了生としての誇りをもって、世界規模で貢献していきたい」と答辞が述べられました。

徳島大学

「産学官連携フロンティア」誕生

平成17年4月、産学官連携の拠点として、全国に先駆け産学官連携の二元化とワンストップサービスを目指し、「知的財産本部」に「地域共同研究センター」、「リエゾンオフィス」、「インキュベーション施設」及びベンチャー育成の「SVBL」を統合しました。

新体制では、知的財産本部を総括的にマネジメントする「産学連携研究企画部」を新設し、特許等知的財産の発掘・管理・活用を推進する「知的財産部門」、知的財産の創出・育成を推進する「新技術開発部門」を置き、社会から慕われやすい名称としました。



て通称「産学官連携フロンティア」として活動を開始しました。

産学連携研究企画部では、大学の研究開発シーズと地域社会のニーズとの橋渡し役として、本学と産業界との共同研究の推進活動、大型研究プロジェクト推進のための競争的資金の獲得支援活動などリエゾン活動を中心に行っています。知的財産部門では、特許管理室を中心に研究成果の発掘・権利化、技術移転室を中心に民間企業等への技術移転の事業を展開しています。

入学式

4月6日(水)、アステイ徳島で、平成17年度の入学式が挙行され、青野学長が2,123名(学部1年次1,404名、学部3年次64名、大学院修士「博士前期課程」515名、大学院博士「博士後期課程」40名)の入学を許可しました。

入学生を代表し、歯学部歯学科の福田亜利紗さんの総代宣誓の後、学長から「学生生活を十分にエンジョイしながら、豊かな21世紀の社会を創り、発展させる人材となられることを期待します。」との式辞がありました。



「ヒューマンストレス研究センター」設置

年間3万人以上の自殺者、心的外傷後ストレス障害、うつ病、青少年犯罪の凶悪化などストレスを起因とする精神疾患やこころの問題が大きくクローズアップされ、また、ストレスが生活習慣病などの多くの疾患の発症に関わっていることから、国民生活の向上と経済発展の大きな障害となつていきます。



総合科学技術会議において「この研究」を重点研究領域の一つとして提言し、これを受け文部科学省の「脳科学と教育」事業、厚生労働省の「心の健康科学」事業が開始されました。

徳島大学では、これらの動きに先立ち、平成13年度にストレス評価用DNAチップ開発班を組織し、先駆的な研究成果を上げ、これまで科学技術振興調整費や21世紀COEプログラム等の事業に採択され高い評価も受けています。

ヒューマンストレス研究センターは、精神神経疾患診断、新しいバイオメンタル技術の確立、精神神経疾患のゲノム・プロテオミクス解析を通じて病態の解明等を行う徳島大学の独自の研究拠点として、学術的及び社会的に評価の高い研究成果を上げることが目的に、4月1日、研究連携推進機構に設置されました。

本センターは、徳島大学発の独自の研究拠点として、社会的にもインパクトの強い成果をあげ、本学の発展に大きく寄与できると期待されています。

業務改善推進制度表彰式

業務改善提案制度による第一回採用提案が決定し、5月16日(月)、学長室において表彰式が行われました。

平成17年1月から導入された業務改善提案制度は、業務の合理化及び効率化を図るための改善方を事務職員から募集するもので、4月13日までに応募があった20件の提案の中から今回は左記の3件が採用されました。

式では学長から採用提案者に表彰状及びギフト券が授与され、謝辞が述べられました。

この制度は、現在も継続しており、業務の改善に関すること、収益向上に関することなど、幅広く改善方策等の提案を募集しています。

第一回採用提案

「共用公用車の三元管理によるタクシー利用費用の削減」

稼働率の低い各局局公用車を大学公用車として共用化することにより利用を促進し、タクシー利用料の削減を図るといふ提案

「午後の職員全体でのミーティング及びヨーガ、朝礼又は1日1回の職員全体の集会」

毎日5分間ミーティングや朝礼を行うこと及びヨーガなどで身体を動かすことにより職場のコミュニケーション



ンをよくし、業務の能率向上と健康維持を図るといふ提案

「電力料金の支払手順簡素化」

電力料金の支払い方法を簡略化することによりインフラ入力等業務の削減を図るといふ提案

名誉教授の称号授与式

5月17日(火)、今春徳島大学を退職された7人の教授の方々に名誉教授の称号が授与されました。(当日は5人が出席)

本学の名誉教授はこれにより268人(徳島大学255人・工業短期大学部7人、医療技術短期大学部6人)となりました。

名誉教授の称号を授与された方々

※カッコ内は元の所属部局等

- 熊谷 正憲(総合科学部)
- 西村 捷敏(総合科学部)
- 宇都宮 英彦(工学部)
- 中林 一朗(工学部)
- 林 弘(工学部)
- 松田 佳子(工学部)
- 金城 辰夫(工学部)

